

まちづくりシンポジウム2023

民と官との連携による新たなまちなかづくり

主催：茨城県・水戸市・茨城県都市計画協会



茨城県では、県民のまちづくりに対する意識の向上を図るため、茨城県都市計画協会及び地元市町村との共催で、昭和61年度より「まちづくりシンポジウム」を開催しております。

今年度は、令和5年7月に開館し、新たな賑わいの拠点となることが期待される水戸市民会館を会場として、令和6年1月23日に、水戸市と共催でシンポジウムを開催しました。

「まちの賑わいづくり」は各地域で課題となっていることから、



『民と官との 令和5年7月に開館した水戸市民会館連携による新たなまちなかづくり』をテーマとし、「まちなか」の現在と将来像を見据え、民と官が連携した今後のまちづくりについて考えました。

また、まちづくり・景観等に対する県民の意識高揚と、まちづくり活動促進のため、モデルとなるような団体・取組を表彰する「第6回チャレンジいばらきまちづくり表彰式」を行いました。

当日は、県内外から約310名の方にご来場を頂いたほか、アーカイブ配信を令和7年3月末まで実施中です。

今回のまちづくりシンポジウムのアンケート結果を見ると、特にパネルディスカッションについて非常に関心が高い傾向があり、水戸市やパネリストの方々の様々な取組が参考になったとの声等、様々な感想が寄せられました。

■第6回チャレンジいばらきまちづくり表彰式

はじめに、第6回チャレンジいばらきまちづくり表彰式が行われ（表彰内容は5ページにて紹介）、大賞の合同会社iriiai Tempo 代表 矢島 祐介様（写真中央）と、優秀賞の関鉄レールファンCLUB 会長 十文字 義之様（写真右）に表彰状が授与されました。

チャレンジいばらきまちづくり表彰式



■基調講演

『水戸のまちなか魅力向上の取組と官民連携』

【講師】平田 輝満 氏（茨城大学都市システム工学領域教授）

平田氏からは、最初に都市交通とまちづくりの近年の動向について、国内外の事例や施策を踏まえ、ウォークブル都市や自転車政策についてご紹介いただきました。

次に、平田氏が委員を務めている「水戸のまち



平田 輝満 氏



なか大通り等魅力向上検討協議会」の「未来ビジョン」や「まちなかデザイン会議」、「水戸まちなかリビング作戦におけるグリーンスローモビリティの実証実験」等の水戸のまちなか再生に向けた取組をご説明いただきました。

まちは市民と行政にとって、最大の共有財産であることから、一緒に考えていくことが重要となるのお話がありました。

■ パネルディスカッション

『民と官との連携による新たなまちなかづくり』
【コーディネーター】

平田 輝満 氏 (茨城大学都市システム工学領域教授)

【パネリスト】

高橋 靖 氏 (水戸市長)

西尾 京介 氏 (株式会社 ユニークエディションズ 代表取締役)

川崎 篤之 氏 (グロービス経営大学院 ディレクター)

平松 良崇 氏 (有限会社 登利庄 代表取締役)

佐藤穂奈美 氏 (株式会社 Coelacanth 代表取締役)



パネルディスカッションでは、『民と官との連携による新たなまちなかづくり』をテーマに、各パネリストから自身の取組内容や今後の方向性についてご発言いただき、その後、平田輝満コーディネーターとパネリストによる議論が行われました。

水戸市長からは、「第2次水戸市中心市街地活性化基本計画」をもとに、これまで水戸市が行ってきた事業・取組やこれに対する効果について、ご説明いただきました。



水戸市長 高橋 靖 氏

水戸市民会館の開業によって、まちなかに新たな賑わい・交流が生まれたことや、さまざまなイベントを実施してまちなかの賑わいを創出していることについて、ご紹介いただきました。また、これからは民の投資・活力・人材等を官が巻き込んでいくことにより、まちなかを元気にしていくことが大事であるとお話がありました。

川崎氏からは、「茨城ロボットの創設」や「グロービス水戸キャンパスの創設」、「M-SPOの創設」等、「水戸ど真ん中再生プロジェクト」の取組について、ご紹介いただきました。また、地方創生にはチャレンジするリーダー・プレイヤーが求められており、民のチャレンジャーをいかに受け入れていくかが重要であることや、官民連携には行政と民間の役割分担を互いが理解して仕事を進めていくことが必要となるのお話がありました。



川崎 篤之 氏

平松氏からは、水戸のまちなかで行われる「アートタワーマーケット」や「MitoriOフェスティバル」等の取組をご紹介いただきました。そして、まちなかに「わくわく」を作ることが、まちの賑わいを創出することにつながることや、積極的に公共空間を使っていくことがまちなかの活性化につながるのお話がありました。



平松 良崇 氏

佐藤氏からは、住みたくなるまちづくりを進めるためには、地域で暮らす人とのつながりが大切であるとお話がありました。地域の場づくりの手法として、「LOCALBOOSTER」や「焚火と本」、「空き家の利活用」等の取組をご紹介い



佐藤 穂奈美 氏



いただきました。また、千葉県佐原市や神奈川県鎌倉市の官民連携のまちづくりの事例を紹介いただき、行政と民間の役割分担が重要であるとお話がありました。

西尾氏からは、官民連携のまちづくりが進んできた背景、最近の国の動向や、官民連携のまちづくりの先進事例等をご紹介いただきました。

新たな官民連携のまちづくりを進めるためには「担い手」、「専門的ノウ



西尾 京介 氏

ハウ」、「空間資源」、「資金」をどう生かすかが重要であるとお話がありました。

その後の意見交換では、民と官が連携するために必要なこと、官民連携のプロジェクトの進め方や課題点、官が民へ、民が官へ求めることなどについて、活発に議論が交わされました。

シンポジウムの様子はこちら→
(令和7年3月末まで公開)



表彰

令和5年度まちづくりアワード（功労部門） まちづくり功労者国土交通大臣表彰 ～茨城県から三鉄ものがたり実行委員会が受賞～

国土交通省では、毎年6月の「まちづくり月間」の実施にあわせて、従来の「まちづくり功労者国土交通大臣表彰」にかわり、都市における種々の課題解決や良好な環境の創造、地域の価値向上を図る先導的な取組、新技術を活用した先進的な取組、従来に無いアイデアによる魅力的な取組など、まちづくりのあらゆる取組の中から特に優れたものを【まちづくりアワード】として令和4年度より表彰しております。

本年度は、魅力あるまちづくりに功績のあった個人または団体を表彰する功労部門で全国から21団体が受賞し、茨城県からは「三鉄ものがたり実行委員会」が受賞しました。

令和5年7月29日(土)に、活動場所である阿字ヶ浦駅構内のひたちなか開運鐵道神社で表彰式が行われました。

功績概要

「ひたちなか海浜鉄道」を活かした様々なイベントの企画・実施を通じて、まちの賑わい創出に貢献しました。



表彰式の様子



引退した車輛を御神体としたひたちなか開運鐵道神社



表彰

令和5年度 第6回チャレンジいばらきまちづくり表彰 受賞者紹介

まちづくりシンポジウム2023で表彰を行いました令和5年度第6回チャレンジいばらきまちづくり表彰受賞者を紹介します。

【チャレンジいばらきまちづくり大賞（知事表彰）】

受賞団体：合同会社iriai Tempo（つくば市）

事業名：「iriai Tempo」一空き家を活用した「持続可能な地域」の拠点づくりー

つくば市の周辺市街地（合併前の旧町村の中心地域）である北条は、筑波山麓の農産物の集積地や加工販売の中心地として発展し、現在でも竹工芸や藍染を作る若手作家が活躍していますが、少子高齢化に伴う地域コミュニティの弱体化により、流通や広告などの情報発信が難しくなったことで、周辺地域の住民でさえ見たり購入したりする機会が減っていました。

そこで、地域住民を中心とする団体が、築100年ほどの古民家を借り受けて改修し、無料で利用できる「たまり場」、地域物産品や生活工芸品を扱う「商店」及びイベントやワークショップの会場となる「レンタルスペース」を併設した「iriai Tempo」を令和3年3月に開設しました。

地域住民や観光客との交流の場として活用され、地域活性化に貢献しています。



入り口正面



レンタルスペース



たまり場



商店

iriai Tempo正面入り口を入るとたまり場、たまり場の左斜め奥が地域物産品や生活工芸品を扱う商店で、右斜め奥がイベントやワークショップ会場として利用できるレンタルスペースがあります。

【優秀賞（土木部長表彰）・まちづくり活動部門】

受賞団体：関鉄レールファンCLUB

事業名：関東鉄道常総線及び竜ヶ崎線における公共交通の利用促進イベントの開催

関東鉄道常総線及び竜ヶ崎線は利用者の減少により、一部区間を除いて赤字額も増加傾向にあった中、関東鉄道常総線・竜ヶ崎線の活性化及び沿線のにぎわい創出、そして鉄道利用の促進を目標に、平成14年4月「関鉄レールファンCLUB」を設立しました。

ファンCLUBは、マスコットレディー「関鉄レール★メイト」の活動や、地元商店と協力した飲料、コロッケ、パン、どら焼き、焼きそばなど多岐にわたる「竜鉄ブランドメニュー」の選定、毎月実施する「とばのえステーションギャラリー」など、沿線自治体や商店等との連携による様々なイベントを展開することで、鉄道の利用促進と賑わいづくりに貢献しています。



関東鉄道竜ヶ崎線



竜ヶ崎線車内のつり革には竜鉄コロッケを模した食品サンプルが取り付けられている



竜ヶ崎市地域公共交通活性化協議会と共同選定した竜鉄ブランドメニュー

